

「主体的な学び」の実現に向けたチェックリスト

平成30年度からは、「課題発見・解決学習」が全県展開されます。これは、全ての学校で、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促進するため、総合的な学習の時間を始め、各教科等の学習において、「課題発見・解決学習」の取組の実践がなされている状態です。

実践に向けた取組チェックリストは次のとおりです。合わせて、「課題発見・解決学習」の単元計画を見直す視点例と、日頃の授業を見直す視点例も示しています。校内の研究推進状況等の把握に活用してください。

【平成30年度の全県展開に向けた取組チェックリスト】

- 学校教育目標を踏まえ、自校の児童生徒に育成を目指す資質・能力を設定すること
- 自校が設定した育成を目指す資質・能力の一つ一つについて、発達段階に応じた目指す児童生徒の具体的な姿を明確にすること
- 自校が設定した育成を目指す資質・能力を「どの教科等で」、「いつ」育成するべきかについて構想すること
- 「課題発見・解決学習」の単元を開発し、次年度の年間指導計画へ位置付けること

【「課題発見・解決学習」の単元計画を見直す視点及び日頃の授業を見直す視点の例】

「課題発見・解決学習」の単元計画を見直す視点(例)

- 目標に迫る問いを、児童生徒から引き出せているか。
- 児童生徒に課題解決の見通しをもたせているか。(既存の知識や経験、他教科等の既習事項の活用 等)
- 児童生徒にとって、課題解決に向かう必然性のある学習活動となっているか。
- 児童生徒の深い学びを実現するための指導の工夫が行われているか。
- 目標に向かって児童生徒の深い学びが実現していく姿を具体的にイメージできているか。
- 児童生徒が、自らの見方・考え方の高まりや学習の仕方を振り返ったり、それらを活用できる場面を考えたりする「振り返り」の場が設定されているか。等

日頃の授業を見直す視点(例)

- 児童生徒の学習意欲を喚起させるような導入の工夫が行われているか。
- 教師が話し過ぎず、児童生徒の言語活動を充実させているか。
- 目標を達成させるために必要な協働的な学びの場を適切に設定しているか。
- 多様な考えを引き出す問いの工夫が行われているか。
- 本時の目標に対応したまとめを自分の言葉で表現させているか。等